

“暑い夏を過ぎて冬を考える”

今年の夏は暑かった。大通公園のビアガーデンでは、過去最高レベルの売り上げを記録したようだ。しかし、お盆を迎える頃になると、テレビではスタッドレスタイヤのCM等が始まり、いやおうなく冬を考えさせられるようになる。

最近、米国連邦道路庁（FHWA）の知人から、“Road Risk”というDVDをいただいた。連邦道路庁の道路気象チームが天気専門のTVチャンネル会社と協力して制作したもので、気象が道路交通にどのようなインパクトを与えているか平易に解説した内容になっている。

このDVDのナレーションによると、米国では70%以上の道路、人口の約3/4が雪氷の影響を受けており、道路交通分野の雪氷問題は国レベルの大きな問題だとしている。日本では、ともすれば雪氷問題は積雪寒冷地のローカルな話題扱いされてしまうこともあるが、米国やヨーロッパの大都市はご存じのようにかなり高緯度に位置しているので、雪の量はそれほどではないにしても寒さは結構厳しくどの都市も少なからず雪氷問題を抱えているのである。

また、雪はプラス2度の気温を境にして雨に変わるように、ちょっとした気温の変化で現象が劇的に変わってしまう。こうしたことから、地球温暖化の影響などが如実に現れてくる分野でもある。

ところで、9月26日から10月1日まで、「2005雪氷研究週間 in 旭川」として日本雪工学会と日本雪氷学会の全国大会が旭川市で開催される（された?）。雪氷学に関わる両学会が初めて連携協力して全国大会を開催するものであり、研究発表ばかりでなく市民向けのプログラムも催される。これを契機に、日本でも雪氷研究の重要性がもっともっと市民に理解されるようになればと願う次第である。

2005雪氷研究週間 in 旭川

→ <http://www.seppyo-shukan.com/>

(防災雪氷研究室長 加治屋 安彦)

* * * *

表紙右上記号 ISSN 1346-6747の説明

ISSNはInternational Standard Serial Number(国際標準逐次刊行物番号)の略で、逐次刊行物に付与される国際的なコード番号で、ISSD(国際逐次刊行物データシステム)という組織のもとで逐次刊行物の組織や検索に利用されます。

この番号は国立国会図書館ISSD日本センターから割り当てられたものです。